

JUNTOS !!

中南米対日理解促進交流プログラム



今回、この素晴らしいプログラムに参加する機会をくださった日本政府に感謝いたします。

私たちはこの先、今回の経験をきっと忘れることなく大切にします。

ラウラ・マリア・ガメス・カリアス
ルイス・アレキサンデル・アマヤ・ガライ
ホセ・レネ・ルイス・ライーネス
アナ・クラウディア・アルドン・デ・ポルティージョ

日本外務省が実施した「対日理解促進交流プログラム(Japan's Friendship Ties Programs)」は、日本とアジア、オセアニア、米国、欧州、中南米地域の間の若者の交流促進のためのプログラムであり、将来、各分野において活躍が期待される約5,700名の若者が参加しました。

中南米地域との交流プログラムは、「Juntos!!中南米対日理解促進プログラム」と名づけられ、中南米の学生及び社会人約100名が招待されました。本プログラムは、技術や専門知識を学ぶための技術研修ではなく、交流のためのプログラムでした。



日本外務省による交流プログラム JUNTOS の一部として、技術、政治や現代社会に関する発見や新しい動向といった日本の社会、文化及び発展が紹介されました。

エルサルバドルからは4名が本プログラムに参加しました。訪日前に我々が日本について知っていたのは、先進技術、発展した革新的なインフラ、アジアで最も重要な国の一つであること、厳格、組織的で規律正しい国民性、自然災害を乗り越えて短時間で復興を遂げた国であること、そして建造物から人生哲学に至るまで、現代まで残されている伝統に満ちた文化的に豊かな国として有名であるというものでした。

開発途上国との関係においては、日本は連帯を示す国民であり、開発途上国の現実を変えるのに理想的だと思われる、自国の協力がインパクトを持ち、長期間持続するという点を模索しています。しかし、我々は日本と中米諸国の間に「遠い隔たり」が存在すると感じていましたが、皇室が中米諸国を訪問されたことで、我々のアイデンティティや文化が格段に近づいたと感じています。その一つに眞子内親王殿下と御両親である

秋篠宮同妃両殿下への御接見が許されたことがあり、エルサルバドルを含むこれまでにご訪問された中米諸国についてお話しすることができ印象的でした。

日本人の重要な特性の一つである礼儀正しさと優しさについて、我々の仲間ルイス・アマヤの経験をご紹介します。「空港に着いた瞬間から、我々が接する従業員のおもてなしとプロ意識の高さを感じることができました。税関では、担当者が私のスーツケースの一つにカタカナで書かれた私の名前を見て、日本語が話せるかと尋ねてきたため、少し話をしました。とても親切な人でした。空港の出口に着くと、我々のガイドさんたちが待っていてくれました。彼らについては、皆さん素晴らしい人たちであるとしか言いようがなく、我々に対してとても親切で、まるで家族のようでした。個人的には、本プログラムが大成功だったのは、ガイドさんたちのおかげであると考えています。」

本プログラムが進むにつれて、我々が日本に対して持っていた考えは的を得ていたけれど、非常に少ないということに気が付きました。というのも、実際の日本にはあらゆる分野においてとても多様な豊かさがあり、実際に滞在するだけで、様々な規模でそれを感じることができるからです。例えば、ゴミの処理・再利用の別のやり方、日常の問題の解決策の見つけ方、企業だけでなく個人レベルでも家庭や事業で出るゴミを分別し、国土を広げるためにゴミを活用していること等が挙げられます。我々は日本に着いた時から、技術が重要な要素であると知っていました。しかし、日本は環境への配慮を忘れておらず、全国民が自覚を持って、日常生活においてリサイクルやゴミの整理によって環境保護のための努力をし、それが当たり前の行動になっていることが印象的でした。



地震やその他の自然災害に非常に脆弱な国であるため、日本国民にとって予防はとても重要であり、生活の一部となっています。また、同じく、滞在中に我々が気が付いた日本人の特徴の一つに未来志向があります。日本人は将来の世代に何かを残そうと考えながら行動し、その世代もさらに次の世代にその考え方を引き継ぐようとしています。環境と技術発展との間の調和的な相互作用を通じて、国民のために持続可能な成長とより良い生活を求めているのです。

我々が言及しない訳にはいかないとても重要な要素として、日本国民は歴史上の悲劇を忘れていないということがあります。我々は広島の爆心地を訪問し、大きな衝撃を受けました。確かにこの悲劇を忘れてはいないけれど、それは未だに苦しんでいるという意味ではなく、それを覚えていつつ、前に進んで、その悲劇の犠牲となった人々のために努力するために活用しているのです。日本国民は、自分たちに起こった悲劇を世界中で二度と起こることのないよう努力するという考え方をもっています。

本プログラムでは、同じ言語や習慣を持ち、そして同じ現実と向き合う国々の人たちが、交流し、日本に関する印象を共有し、また意見交換を行う場を提供していただいたことに非常に感謝しています。その結果、我々の中米・カリブ地域に発展に関するアイデアを持ち帰ることができるという素晴らしい経験することができました。本プログラムで訪問した場所はどれも、その場で感じたこと、受けた印象、そして経験したことのすべてがとても衝撃的でした。本プログラムにおいて我々は、日本が規律、他人への敬意、時間厳守や秩序という点において中米・カリブの国々の模範となっているのだということをおぼろげに学ぶことができたという強い信念を持っています。



我々は、世代を超えて受け継がれている古代からの文化への敬意や文化遺産の保存が国内外の観光客を集めていることに感心しました。また、家族や子どもたちに受け継がれている家族の伝統、そして高齢者への尊敬の念といった価値観も印象的でした。

最後に、日本を訪問して各参加者が感じたことを一部ご紹介します。

「今回、素晴らしい文化、建築物、日本社会の価値観を直接体験させて頂いたことに感謝いたします。今回の経験は、私にとって間違いなく前向きなインパクトをもち、今後は今回私が得た知識を周りの人たちと共有し、また自分の置かれた環境の中で小さな行動を起こしてみようと考えています。また同時に、本プログラムで芽生えた他国の参加者との友情や、私を本プログラムに参加させてくださった日本の外務省の方々との友好関係を維持して行きたいと考えています。」 ラウラ・マリア・ガメス・カリアス

「今回のような素晴らしい機会を与えてくださった日本国民の皆様に感謝の気持ちを示すためにも、私が日本について持つすべての知識をできる限り多くの人と共有できるよう、あらゆる努力をしたいと思います。また、今回得た経験を活かして日本語教師になり、将来の世代が日本の文化・伝統への興味を持つことができるようにしたいと思います。」 ルイス・アレキサンデル・アマヤ・ガライ

「やはり、日本は私が想像していた以上の国であり、私は日本でのリソースの使われ方や文化遺産、規則、人々等への敬意の払い方が好きです。本プログラムに参加させて頂けたことに心から感謝します。この信じられない経験を、今後の私のプロジェクトで活かしたいと思います。」 ホセ・レネ・ルイス・ライーンネス

「10日間で、私の人生で最大の経験を得ることができました。日本を訪問したこと、これは忘れられない経験として私の心に刻まれることでしょう。我々が接した人々ひとりひとりからのおもてなしの心、新しいものと古いものとが調和した風景の美しさを決

して忘れることはありません。私が今回学んだ日本文化のすべてを必ず発信していくことをお約束します。今回のような機会を与えてくださり本当にどうもありがとうございました。そして、皆様の優しさと尊敬の意にも感謝いたします。」

アナ・クラウディア・アルドン・デ・ポルティージョ

